	事業所名	放課後等デイサー	-ビス グリーンヒ	ルキッズ・ジュニア	3	を援プログラム	ふ(参考様式)	作成日	2025 年	1 月	15 日
	法人(事業所)理念			人ひとりの特性を理 日々支援を進める。	解し、その特性(こ応じた支援計画に	基づき、学校、地域、家庭、関係権	幾関等と協力して計画的に即	仅り組んでいく。社会	会との交流や自立を	を目指して本人、
	支援方針	利用者のニーズに応じた個別支援計画を作成し、その計画に基づきながら在宅の利用者が住み慣れた地域での生活が送れるように、療育・運動・学習・音楽・各種体験活動等の支援を行う。 年齢や障がい特性に応じ、生活支援及び日中活動支援を積極的に行うと共に、家族等の身体的・精神的な負担を軽減するために、総合的なニーズを確認していきながら計画的にサービスを提供する。									
	営業時間		10 時	<mark>30</mark> 分から	19 時	30 分まで	送迎実施の有無	あり なし			
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	体調管理を含め、水分補給、衣服の調節、手洗いなどを心がける意識の取り組みを支援します。生活リズムや学校での環境の変化に心身共に安定して過ごせるようにメリハリをつけながら 支援します。挨拶、衣服の着脱の習慣化を丁寧に行うことで、自立にむけた取り組みを行います。集中して活動ができるように、環境を整えます。早食べにならないように間隔を開ける工 夫やよく噛むことへの声かけを行います。排泄の際の手順、マナーなど確実に身につくように繰り返し支援をします。									
	運動・感覚	集団での取り組みと個別での活動時間を設けます。具体的な活動内容をスケジュール化して見通しをたて取り組みやすい工夫を行います。制作遊び、ボードゲーム、公園遊び等、遊びを通 した療育活動の中で感覚統合を経験することで不安なく苦手意識から意欲的な行動に繋がるように支援します。学習教材・数字や言葉等、生活の中で使うことのできる力の育成、友達と学 び合う関わりなど共に情緒面のケアを行ないます。									
	認知・行動	を適切に処理、	、コミュニケーシ		生ずる行動のう	防方法を考えます	学習の姿勢を支援します。 「頑弱 す。待つ時間や余暇の過ごし方、				
	言語コミュニケーション	"要求" "報行 レーニングの§ します。	吉" "聴く" "梼 実践「教示・モテ	使做""観察する" ["] リング・リハーサ	など、自分もほ [†] ル・フィール l	引りも大切にするこ ヾバック・般化」∜	コミュニケーションを学びます。 等、利用者に合った方法を一緒に	言葉だけでなく、言葉 [・] 二考えます。共感、共通の	や絵カード・映像等 の話題で他者との原	等を使用してソ− 関りが楽しく思 <i>え</i>	-シャルスキルト -るような支援を
	人間関係 社会性	「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉が相手にスムーズに言えることで、人間関係が築けるようなきっかけ作りを行います。ごっご遊びやルール遊びに参加し役割やルールに応じた 行動を身につけ集団に参加することができるように支援します。自分が思うようにならなかった時や失敗した時は気持ちに寄り添いながら、時には代弁し自分で落ち着けるように方法を一 緒に考えたり、時には環境を整えたりします。物事を自分で考えたり、自分で決めたり「自己決定」できる力がつくように支援します。									
	家族支援	キャンプ等を通		生活状況やお困りご る相談・支援を行い 解消に努めます。			移行支援	学校選びや入学試験の 業所、学校などでの様 ます。			
	地域支援・地域連携	サービスと連携訓練や緊急支援	し、包括的な支援 ネットワークを構	し、地域資源を活用 体制を整える。地域 築し、災害時の対応	・法人内の他事 力を高めます。	業所と連携し防災	職員の質の向上	新人(中途)研修・福祉 対策研修・虐待及び身 検討含む)等・内部研修	本拘束に関する研修 多及び外部研修への	多・スキルアップ の参加に努めてい	が研修 (0.1T. 事例)
	4月 お花見 5月 外出体験(電車体験) 6月 地域交流 フラダンス体験① 7月 七夕/工場・博物館見学 8月 夏祭り/デイキャンプ 9月 世代間交流会 主な行事等 10月 ハロウィン 11月 『朗読劇と音楽の集い』参加 12月 地域交流 フラダンス体験②(クリスマスコンサート) 1月 初詣/お餅つき 2月 豆まき 3月 ひな祭り										